



舟田会長



栃木県に支部工業会 第二回定時総会を開催

栃木県内で防草ブロックを製造するコンクリート製品企業5社が栃木県防草ブロック工業会(TWBA)を立ち上げ15日、ホテルマイステイズ宇都宮(栃木県宇都宮市)で第1回総会と研修会を開催した。

防草ブロックは植物の生長メカニズム「屈光生」「屈地性」を利用して、従来のコンクリート製品の目地形状を変えるだけで雑草が自ら成長を止めてしまう防草技術を備えた製品。多くの有識者から環境製品として高い評価を得て、今年10月のグッドデザイン賞BEST100をはじめ、エコプロダクツ大賞、発明大賞等6つの賞を受賞。施工実績も平成28年度は70・3km(前年度比2・3倍)と大幅な伸びを示すなど、道路の維持管理コスト削減を狙いとして全国的に採用が広がっている。

防草ブロックの普及が進むにつれて、地元ニーズに対応することを狙いにした県別工業会立ち上げの動きも活発化しており、これまでに防草ブロック工業会東海(8社)、群馬県防草ブロック工業会(8社)が発足、さらに沖縄県防草ブロック工業会(11社)と四国防

栃木県防草 ブロック工業会

草ブロック工業会(5社程度)の発足も予定されている。こうした流れを受け、栃木県内で防草

ブロック技術の周知活動を図ると共に栃木県内で防草対策に関する問題を共有し、栃木県の道路構造や道路事情に合致した防草ブロックの開発・製造・納入に至るまでの課題を迅速に解決することを狙いとして、新たに栃木県防草ブロック工業会が発足した。

●総会

総会では第1期(平成29年10月1日〜平成30年9月30日)の事業計画案と収支予算案を審議し了承した。今期は総会の他、役員会、営業技術部会を開催すると共に、国交省をはじめ県市町村の道路建設発注者に対して、安全対策や防草対策として防草ブロックのPR活動を展開する計画。

役員人事では、会長に舟田詔光氏(坂内セメント工業所)、副会長に平渡明氏(平渡コンクリート工業)、監事に森田俊哉氏(カイエー共和コンクリート)を選任した。併せて富山コンクリート工業(正会員)と共和ゴム(賛助会員)の新規入会を了承した。また顧問に防草研究会の石川重規氏と宇都宮大学の西尾孝佳准教授が就いた。総会で挨拶した舟田会長は「本

日、正式に栃木県防草ブロック工業会が発足することになった。顧問には防草研究会の石川重規氏と宇都宮大学の西尾孝佳准教授を迎えた。石川氏は我々の業界にはない新鮮で客観的な視点で雑草の生育メカニズムに関する研究を重ねてこられた方で、県内の防草ブロックの一層の普及に向けてご指導をお願いしたい。また西尾先生は同大学の雑草と里山の科学教育研究センターで、雑草本来の生存様式と人の生活圏への侵入様式に関する研究など、人と雑草の関わりについて非常に造詣が深い先生で、アドバイザリ的な立場で当工業会に協力して頂く。防草ブロックは全国的に注目を集めている。今年10月にグッドデザイン賞を受賞した他、国土開発賞、環境賞、エコプロダクツ大賞、発明大賞、愛知環境賞と6つの大きな賞を受賞している。いずれの賞も受賞しているのは大企業が中心だ。我々が受賞できたのは長い年月と労力を費やした研究の成果であり、いかに防草ブロックが社会や行政で高く評価され、広く認知されているかが分かる。栃木県内では5年程前から防草ブロックの普及拡大に取り組んでおり、これまでに国交省の工事で1万3000mの実績を積み重ねてきた。新入会員2社を迎え、今後益々皆さんの御尽力と協力で当工業会が発展し、大

な果実として結実することを期待している」と述べた。

●研修会

研修会では防草研究会の石川重規氏が「防草ブロックは国内唯一のエコプロダクツ」と題して講演した。石川氏は2012年に施工した愛知県内の中央分離帯防草ブロック施工現場で、防草ブロックと従来ブロックの定点比較観測の推移を紹介し、施工から5年が経過した現在も、防草ブロックを施工した側では雑草が全く生えない一方、従来ブロックを施工した側では雑草の繁茂により目地の剥離が発生し、張りコンクリートが2cm以上沈下していると報告。雑草の繁茂が道路構造物に悪影響を与えるデメリットを強調した。

防草ブロックの施工実績は今年7月末時点の累計で233km(899件)。施工から10年以上経過した現場も増えているが、いずれも防草効果が保たれている。石川氏は「防草ブロックは環境型の次世代製品として重要な役割を担っている」と述べた。

栃木県防草ブロック工業会の会員社は次の通り。【正会員】▽坂内セメント工業所▽平渡コンクリート工業▽カイエー共和コンクリート▽富山コンクリート工業【賛助会員】共和ゴム。事務局は坂内セメント工業所北関東営業所内に設置する。